

人の心に寄り添い 105年 秋田県北の地域紙

株式会社北鹿新聞社 編集局報道部報道課長

佐藤 健一



秋田県北部の大館市と北秋田市、鹿角市かづの、小坂町かみこ、上小阿仁村あにをエリアとした日刊地域紙を発行している「北鹿新聞社」の佐藤健一と申します。取材記者として行政全般を担当しています。東京・

渋谷で飼い主を待ち続けた大館生まれの忠犬ハチ公は今年で生誕100年の記念すべき節目。さまざまなプロジェクトが展開され、弊社も協力企業として応援しています。

この度は、行政相談制度と行政相談委員制度に関する弊社の情報

発信に対し、全国行政相談委員連合協議会会長から感謝状をいただき光栄に存じます。相談所の開設や各種表彰、大型店での広報活動などを読者に伝えることが制度周知の一助となったとすれば喜ばしい限りです。

題号の「北鹿」は「ほくろく」と読みます。大正7（1918）年10月8日、北秋田郡大館町に呱呱こゝろの声をあげました。北秋田郡と鹿角郡の頭文字を合わせています。戊辰戦争から半世紀たった当時も北秋田と鹿角の間にわだかまりが

ありました。その怨恨の垣根を取り払うとともに、産業振興への潤滑油を注ごうという思いが込められています。ちなみに地酒「北鹿」の読み方は「ほくしか」です。

今年で創刊105周年を迎えます。決して平坦な道のみではありませんでした。創刊翌年に本社が類焼、移転新築した社屋も昭和28年の大火で全焼し、資料・保存紙の多くを失いました。大戦中は新聞統制によって廃刊を強いられ、戦後復刊直後もGHQの厳しい取り調べを受けました。



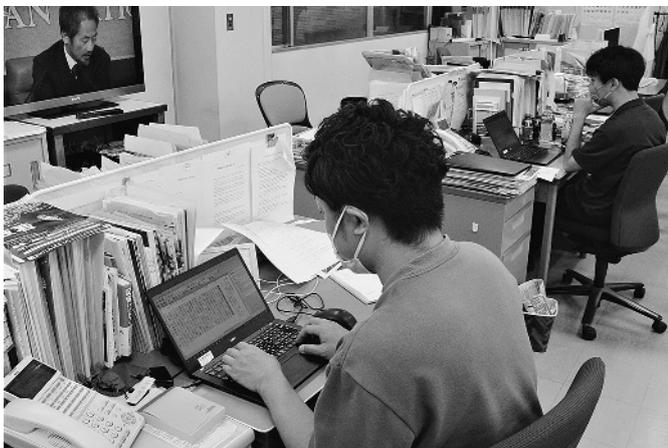
北陸新聞社外観

増ページやカラー化、折り込みチラシなどで昭和50年代半ばから平成初期にかけて購読部数が急増し、現在は約2万5000部を発行しています。大館市内では世帯普及率70%を超え、大きく飛躍することができました。これまで培ってきた実績と信頼は、諸先輩方の並々ならぬ努力のたまものです。

本紙だけを読む、いわゆる主読紙というより、全国紙と併せた併

読紙としての性格が強い傾向にあります。しかし、地域紙には全国紙がカバーしきれない地元ニュースや話題を細かく拾う強みがあり、読者の支持につながっています。それだけに地域に密着した報道は欠かせず、各市町村の身近な問題をできるだけ取りこぼすことなくすくい上げる努力を続けてきました。

大きな写真と見出しでスポーツ紙顔負けのスポーツ欄を作ったり、1面と最終面が続いた見開きの写真を載せた特集で本紙をくるんだり、大胆な紙面を展開しています。編集や製作だけでなく広告、印刷、販売など全社挙げて対応することが必要です。即座に対応する機動力は大きな特長であり、若手を中心とした現場からの発想や意見を尊重するのは昔からの社風といえます。



原稿作成に追われる記者たち



地域情報満載の北陸新聞

読者を積極的に紙面に登場させる企画のほか、記者が畑仕事や雪像づくり、自らの育児体験、各種イベントへの参加をルポとして載せる新たな取り組みにもチャレンジしています。

新聞離れが叫ばれるようになり、記事や情報の質はもちろん読者を飽きさせない新鮮な紙面づくりはますます重要になっていきます。

弊社は、草創期から数多くの文化、スポーツ行事を主催してきました。出場資格が満40歳以上の「360歳野球大会」をはじめ、中学校新人野球大会、県北地区4支部対抗将棋大会、北鹿川柳は連綿と歴史を刻んでいます。また、地域の方々により強固な関係を築くことにも役立っています。

行政相談委員は県内で82人が委嘱され、このうち北鹿地方で13人が活動しています。

住民の困りごとに耳を傾ける相談所の開設日程や、大型店で継続

的に行っている広報活動、その長年の活動に対する表彰などを紙面で紹介させていただいております。



行政相談委員の活動を紹介した記事

委員の皆さんは快く取材に応じてくださり、「相談者の話を丁寧に聞くことを心がけている」「一緒に考える気持ちで取り組んでいる」と、熱い思いを語ってくれました。ご苦勞も多い中で全く恐れ入ります。県中央に集中していた大学入試センター試験(現共通テスト)会場を県北、県南に増やそうと関係機関に働きかけて実現したという改善事例もありました。

これからも地域で行われる啓発活動を取材させていただき、読者

に届けていきたいと考えております。取材の基本姿勢は「人の心に寄り添う記者であれ」。行政相談委員の使命に相通ずるものがあり、皆さんの声を聞くたびに身の引き締まる思いです。

最も懸念されるのは人口減少です。大館市は毎年1000人前後のペースで減り続けている一方、高齢者の単身世帯が増えています。市はハチ公生誕100年プロジェクトを重点事項に位置付け、交流促進協定を結んだ渋谷区と関係人口拡大や産業・観光振興を目指しています。鹿角市や北秋田市は世界文化遺産の縄文遺跡を核としたまちづくりを進めています。

そんな地域がより良くなるために活動されている行政相談委員の皆様、今後ますますのご活躍を祈念しております。